

読書活動推進に向けた取り組み

1 学校の概要

- ② 住所 : いわき市勿来町窪田町通2-1
- ②学級数 : 5クラス (1学年1クラス 2.3学年2クラス)
生徒数 : 100名 (令和6年11月30日現在)
- ③ 学校図書館の蔵書数 : 23,795冊 (令和6年3月31日現在)

2 本校での取り組み

①生徒が本に親しみやすく、使いやすい学校図書館環境の一層の充実へ向けた取り組み

◆図書配置・図書館環境づくりの工夫

- ・親しみやすさを感じられるよう、生徒が作成した掲示物やPOP (※②にて後述) 等を用いた図書館作りをしている。また、新刊や話題になっている書籍、映像化された書籍は、入り口すぐの、生徒にとって目に付きやすい書架に配置し、手に取りやすいようにしている。



◆図書紹介

図書館そばの掲示板に、新着図書入荷の案内を司書教諭が毎回掲示し、生徒の興味・関心をひく環境を整えている。

- ・毎月1回、「図書だより」を発行し、新着図書の紹介を行い、生徒全員に配付の上、各教室にカラー版を掲示している。



◆開館時間

・平成28年度から司書教諭が配置され、常時開館が可能となった。授業時における図書室利用の際も、種々のアシストが受けられ利便性が向上した。生徒が必要だと感じたタイミングで利用できる環境が整っている。空調完備で、快適に読書活動が出来る。また、常時開館が可能になったことで、図書館が教室以外の大切な居場所となっている生徒もいる。長期休業中は、学習支援の場としてフル稼働している。

◆リクエストの受付

- ・読みたい本がない場合は、カウンターにあるリクエストカードを利用し、常時リクエストを受け付けている。
- ・毎年1回、全校生を対象に図書館アンケートと購入希望図書アンケートを実施し、極力生徒の希望を反映した選書を心がけ、生徒の「読みたい！学びたい！」という意欲や知的好奇心に応えられるようにしている。

②学校における読書を通じた読書習慣の定着を図る取り組み

◆朝自習の時間の活用

- ・各学年において、朝自習の時間を利用し、一斉読書の時間を設け、読書の習慣化を図っている。図書館からは、朝の短い時間でも読んだ実感がわくような、比較的ライトな本をおすすめ本として紹介。また、生徒達に伝えたい旬な話題やニュースを教師が提供し、読後感や気になる点等をA4用紙一枚程度に文章でまとめる、「読む・思考する・表現する」活動を朝自習の時間を利用して行っている学年もある。

③読書活動の質の向上へ向けた取り組み

◆授業との連携

- ・授業において図書館の本を紹介するPOP作成を行っている。自分が読んだ本の内容紹介やキャッチコピー、心に刺さるおすすめの一冊などを盛り込んだPOPを作成し、生徒同士でお互いの作品を評価し合った。また、司書からも各作品にコメントの協力をしてもらい、読書の楽しさや他者に本を紹介することの面白さを知る機会につなげている。完成品は、図書館で実際に展示しながら、本の紹介に使用している。



生徒が作成したPOP



推薦本のプレゼンテーションも行った

④ その他、読書活動推進へ向けた取り組み

◆ 図書資料の授業での活用を促すための取り組み

- ・アクティブ・ラーニングに関する書籍を職員室に別置き、コーナーを設けた。

◆ 生徒の興味関心をひくための取り組み

- ・毎年1回発行している「図書館報」で教職員から、おすすめの本の紹介を行っている。図書館の蔵書が紹介された場合は、「先生方からのおすすめ本」のコーナーを設置している。
- ・1・2学年の生徒は、毎年1回、読書レポートの作成に取り組んでいる。提出した作品の中で特に優れているものは「図書館報」に掲載し、紹介している。
- ・映像化された、話題の漫画のリクエストも多いことから、漫画本から興味関心を持たせて一般図書へつながるよう、各教科の先生方からも紹介していただきながら、配置している。
- ・進路活動に関する書籍はコーナーを設け、生徒が「本を使って調べたい!」と思った時に、すぐに対応できるようにしている。



図書館報



本屋大賞のアナウンス

◆ 公共図書館との連携

- ・いわき市内の公立図書館から、市内の高等学校図書委員が作成した「推し本」のPOP作品提出の要請があったため本校生も参加し、いわき市立いわき総合図書館に展示された。普段、紹介する機会の少ない公共図書館について、生徒へ案内する契機となった。